

2019年度図書館機構講演会

「オープン・サイテーションと機関リポジトリの展開」

2019.5.20

**オープン・サイテーションが
学術情報流通に与えるインパクトと
日本でオープン・サイテーションを
促進するために**

佐藤翔（同志社大学）

本日のお題

- OCのインパクト
- 日本でOCを促進するには

本日のお題

- OCのインパクト
- 日本でOCを促進するには

OCのインパクト

- OCを使ったサービス開発
- OCに基づく評価指標構築
- 引用ネットワーク研究の促進・拡大

サービス例 : citation gecko



Recommended Reading

Natural Search User Interfaces for Complex Biomedical Search: An Eye Tracking Study 
Liu (2017)
Journal of the Australian Library and Information Association **cites 1 seed papers**

Images in Social Media: Categorization and Organization of Images and Their Collections 
Ørnager (2018)
Synthesis Lectures on Information Concepts, Retrieval, and Services **cites 1 seed papers**

Using Information Trustworthiness Advice in Decision Making 
Nurse (2012)
2012 Workshop on Socio-Technical Aspects in Security and Trust **cites 1 seed papers**

A Qualitative Investigation on Patient Empowerment in Prostate Cancer 
Renzi (2017)
Frontiers in Psychology **cites 1 seed papers**

- Seed Papers
- Papers Cited-By Seed Papers
- Papers Citing Seed Papers



Export Add as seed

Minimum Connections: 1

citation gecko 

<https://citationgecko.com/>

現在の研究評価指標

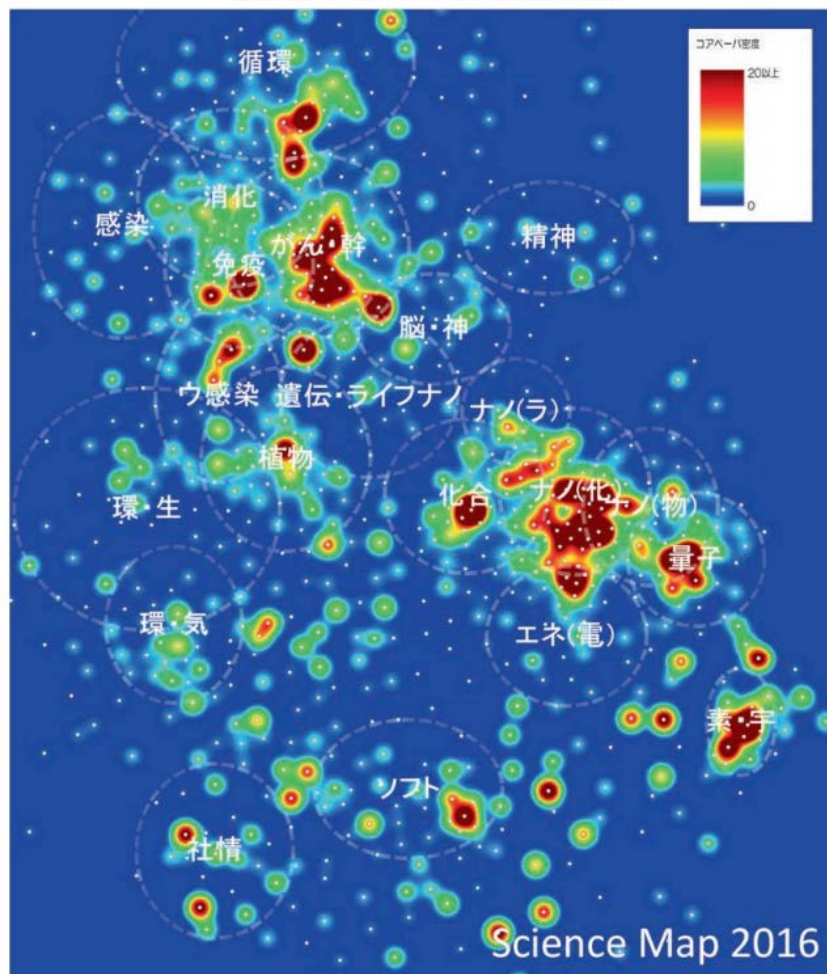
- 引用関係に基づく評価指標が主流
 - インパクトファクター
 - Scimago Journal & Country Rank
 - h-index etc...
- データの多くは有料・閲覧自体有料なことも
- データ源の範囲に（意図的）限界

OCが普及すれば

- 誰もがアクセス・検証可能な指標
- 誰もが新指標をより容易に作成可能に
- 従来は付与されなかった対象への指標付与
 - 非英語文献
 - 人文学領域
 - 紀要・小規模学会誌

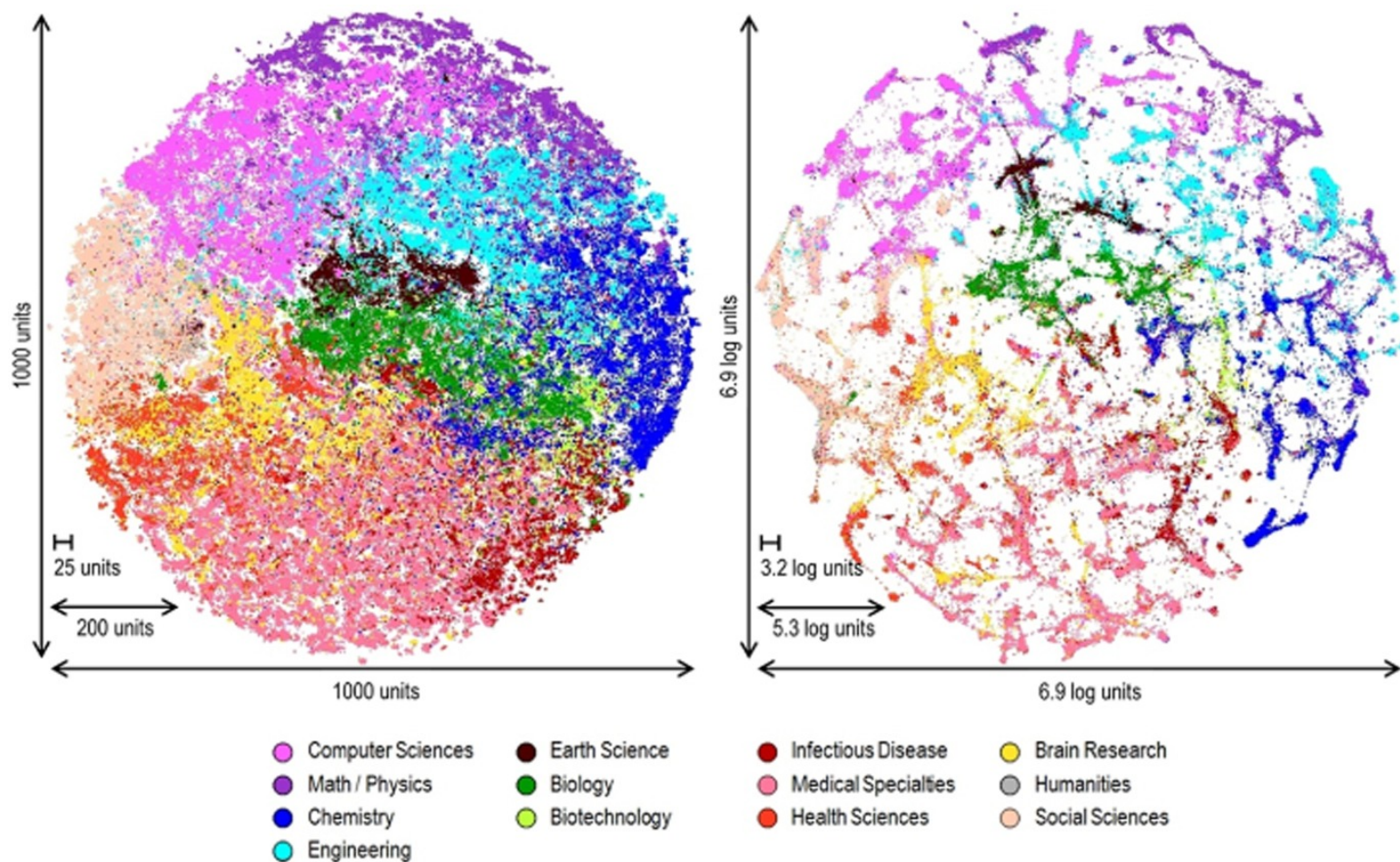
引用ネットワーク研究例

概要図表 1 サイエンスマップ 2016 の全体像



NISTEP : サイエンスマップ <http://hdl.handle.net/11035/3213>

研究ネットワーク研究例



Boyack, K. W. and Klavans, R. (2014), Creation of a Highly Detailed, Dynamic, Global Model and Map of Science. J Assn Inf Sci Tec, 65: 670-685. doi:[10.1002/asi.22990](https://doi.org/10.1002/asi.22990)

本日のお題

- OCのインパクト
- 日本でOCを促進するには

日本のOCの現状（確認）

- 世界平均に比べれば遅れている
 - 過去の論文のOCが進んでいない
- 進んでいるのは海外大手プラットフォーム誌
 - 名目上の版元は日本の学会だが・・・
- **日本のプラットフォームは遅れている**

日本の学術出版プラットフォーム

- J-STAGE
- 機関リポジトリ

日本の学術出版プラットフォーム

- J-STAGE

- CrossRef DOIがあれば話は早い
- 学会側への啓発が必要？

- 機関リポジトリ

機関リポジトリとOC

- J-STAGE

- CrossRef DOIがあれば話は早い
- 学会側への啓発が必要？

- 機関リポジトリ

- 大変なのはここか...特に**紀要*リポジトリ**

日本の紀要の特異性

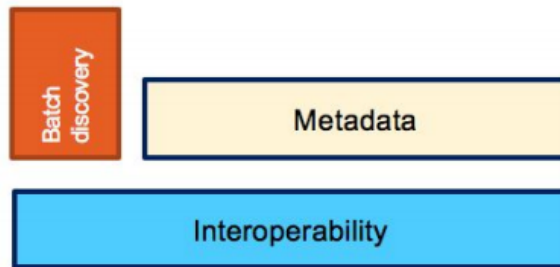
- フルテキストは（ほぼ）オープン
 - オープンでない場合は非デジタル
- 出版プラットフォームは機関リポジトリ
 - 多くは印刷業者1st ?
 - PDF版のみが存在
- 無料公開に異議は（おそらく）ない
- **そもそもCitation Dataが存在しない**

機関リポジトリと引用データ

Current repositories

Services we can develop with repositories today

Conceptual layer



Persistence layer



Next generation repositories

Services we can develop with the next generation of repositories

Conceptual layer

Discovery mechanisms
Batch
Navigation
Notification
...



Interoperability

Persistence layer



機関リポジトリ × Citation Data

- データをどう持つか
 - 必須！：恒久的識別子（JaLC DOI？）
 - 現JPCOARスキーマ中等で表現？ 改定？
- 持ったデータをどう活用するか
 - 機械的に抽出⇒OCCやCOCIへ提供？
 - どのタイミングでやる？（個別はないとして・・・
JAIRO？ CiNii○○○？）

**（たぶん） この機会に
いろいろ相談されるはず
！！**

min2fly@slis.doshisha.ac.jp

